

経営比較分析表（平成28年度決算）

埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.47	99.69	2,127	

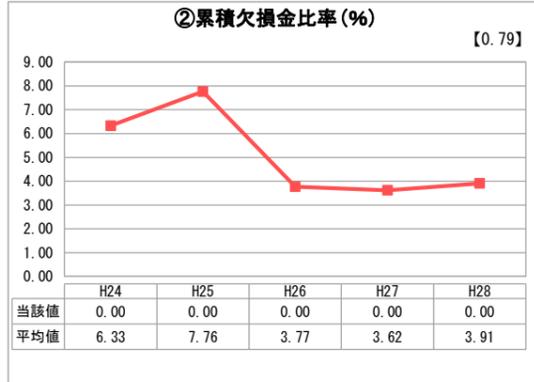
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,690	34.07	1,018.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,388	24.20	1,420.99

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成28年度全国平均

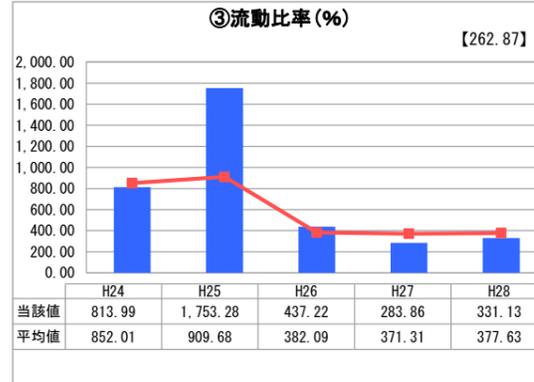
1. 経営の健全性・効率性



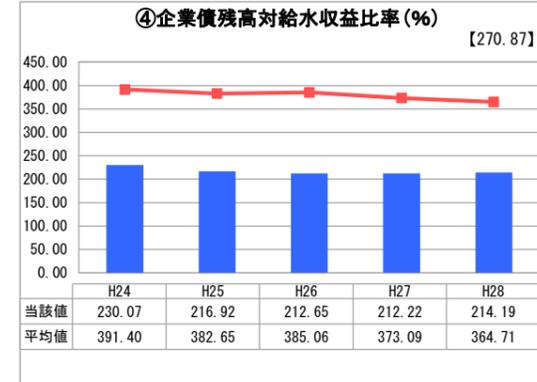
「経常損益」



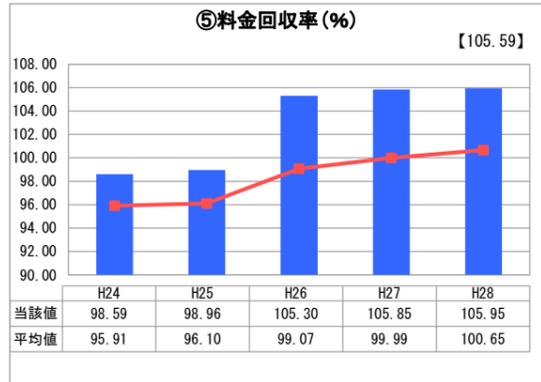
「累積欠損」



「支払能力」



「債務残高」



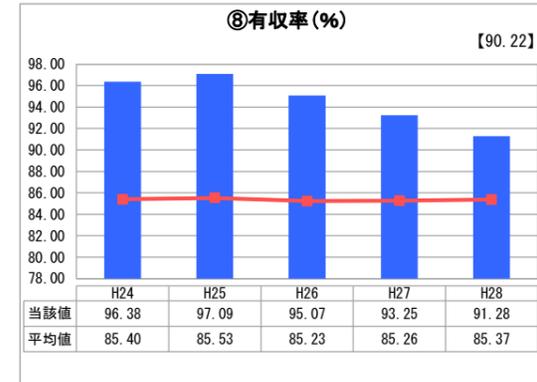
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

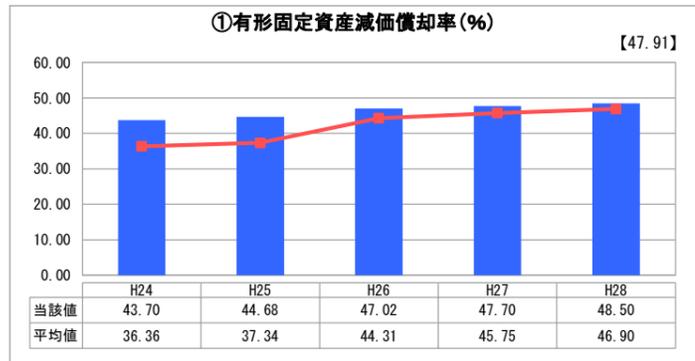


「施設の効率性」

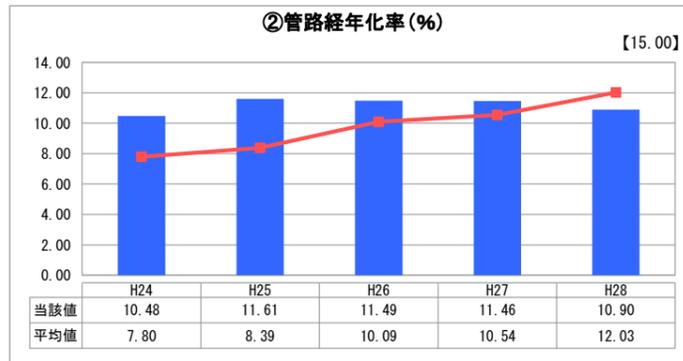


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%を上回っており単年度では黒字であることを示しているが、類似団体平均値を下回っているため、費用削減など経営改善を図る必要がある。
- ②累積欠損金比率
累積欠損金が発生していないため、0%である。
- ③流動比率
短期的な支払能力を示すもので、類似団体平均値とほぼ同水準であり問題はない。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を大きく下回っており、企業債残高の規模は適正に保たれている。
- ⑤料金回収率
給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを示すもので100%を上回っているが、これは平成26年度の会計制度の変更によるところが大きい。
- ⑥給水原価
有収水量1m³あたりにかかる費用を示すもので、類似団体平均値を下回り、ほぼ同水準で保たれている。
- ⑦施設利用率
一日配水能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、類似団体平均値を大きく下回っており、施設規模に対して効率的に利用していない状態である。今後施設のあり方の検討を行う必要がある。
- ⑧有収率
類似団体平均値を上回っているが、年々下落傾向にあるため、老朽管の布設替えや漏水調査を実施することで有収率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示すもので、概ね類似団体平均値と同水準だが、高い数値となっている。
 - ②管路経年率
管路の老朽化を示すもので、類似団体平均値を下回っているが、今後も計画的に更新していく必要がある。
 - ③管路更新率
年度によってばらつきがみられる。平成28年度は類似団体平均値を大きく上回っている。
- ①から③の指標をあわせて分析すると、特に管路で石綿セメント管がまだ多く残っているため早急に更新を進める必要がある。

全体総括

今後も経常収支比率が100%を下回ることがないよう健全な経営に努める。しかし、人口減少による給水収益の減少が進んでおり、施設等の更新財源の確保が十分とは言えない状況である。
施設の老朽化については、平成29年度にアセットマネジメントを実施し、実使用年数を考慮した更新基準年数を設定し計画的に更新事業を行うため経営戦略を策定している。この更新事業を実施するための財源を確保するためには水道料金の改定や施設のダウンサイジング等を早急に検討・実施していく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。